

美しいカーテンのつくり方

カーテンスタイリングの中でも特に基本となるカーテンの縫製方法を中心に、知識とテクニックをご紹介します。

- 布地の使用量を算出する
- カーテンを縫製する
- 美しく取り付ける

カーテンを美しく吊るために

カーテンを美しく吊るための、取付方法や採寸方法等、窓に合わせたしつらえにするための知識をご紹介します。

- カーテンの機能性を活かす取付位置
- 住宅の建築構造と下地の基礎知識
- 採寸の基礎知識

知っていると便利な窓辺の小ワザ

窓まわりのちょっと便利なテクニック。窓辺を変えることで、より快適な空間をご提案します。

- お部屋の印象を変えるカーテンの吊り方
 - エアコンや壁が近くなる時の解決方法
 - ブラケットスルー機構の便利な使い方
- 他10の小ワザ

窓からできる省エネの話

省エネアイテムをうまく活用することにより暖房熱を逃さない、冷気を入れない節電対策がしっかり行えます。

- カーテンをサイドまで覆いましょう
- カーテンレール上部をふさぎましょう

美しいカーテンのつくり方

カーテンスタイリングの中でも特に基本となるカーテンの縫製方法を中心に、知識とテクニックをご紹介します。

1 布地の使用量を算出する

▶ Point 要尺はプリーツの取り方で変わります

要尺の出し方

必要布地の長さは

丈 × 幅数 = 要尺

仕上り寸法+上部折返し約10cm+裾折返し約15cm

幅数はプリーツ(ヒダ)の取り方によって以下のように変わってきます



3つ山ヒダ
間口の約2～3倍



2つ山ヒダ
間口の約1.5～2倍



ワンタック
間口の約1.2倍
フラットの場合 間口の約1.1～1.3倍



ペンシルプリーツ
間口の約3～4倍

柄物は柄合わせが必要です。1幅の寸寸法がリピート数の整数倍になります。

※レースやケースメントの場合は折返しを二重にします。上部折返し約20cm、裾の折返し約20～30cmが必要です。

例	カーテンの仕上り寸法：幅200cm×高さ200cmの両開きカーテン カーテン仕様：2つ山ヒダ、カーテン布地120cm幅、柄物（柄リピート20cm）
丈	200cm（仕上り丈）+10cm（上部折返し）+15cm（裾折返し）=225cm 柄リピート20cmで割り、答えを整数倍に切り上げると… 225cm÷20=11.25→12柄分 柄リピート20cmなので20×12 →丈=240cmとなります。
幅	100cm（片側仕上り幅）×2倍（2つ山ヒダ）=200cm カーテン布地幅120cmで割り、答えを整数倍に切り上げると… 200cm÷120=1.67→2幅分 両開きなので2枚分 2幅+2幅=4幅 →カーテン布地幅、4幅使いとなります。
丈	240cm×
幅	4幅使い=960cm 要尺は120cm幅のカーテン布地9.6mとなります。

プリーツに向けられる布地の計算（芯地を使った場合）

プリーツに向けられる布地の量は

$$\text{有効布地幅} - (\text{出来上がり幅寸法} + \text{両脇折り返し分} [2.5\text{cm} \times 2 \times 2] + \text{はぎ合わせ分} [1.5\text{cm} \times 2]) = \text{プリーツ分}$$

例	間口91cm(半間)に対して、1mの布地を2幅使いする場合の、プリーツに向けられる布地量は
$200 - (91 \times 1.05 + 2.5 \times 2 \times 2 + 1.5 \times 2) = 91\text{cm}$ <p>有効布地幅(100cm幅布地×2幅) 両脇折り返し分 はぎ合わせ分 出来上がり幅寸法(間口91cm+5%のゆとり)</p>	<p>プリーツ9本とすると1プリーツ分は 91cm ÷ 9 = 10.1cmとなります。</p>

布地の選び方 ・美しいプリーツをつくるためには、要尺をたっぷりとることが大切です。
・プリーツの出やすい柔らかい布地を選ぶことも重要です。

2 カーテンを縫製する

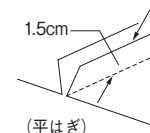
▶ Point 裾にウェイトを入れる

はぎ合わせの方法

布地の種類や使用目的によってははぎ合わせの方法は異なります。

インターロックミシンを使用して、ミミを切り落としながら、ほつれ止めのオーバーロックと、合わせ縫い(カン縫い)を同時に行うインターロックが一般的です。

遮光性を高めるためには「くるみ縫い」、柄合わせを正確に行うためには「平はぎ」などを選択します。

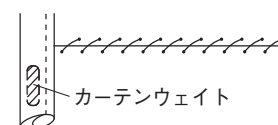
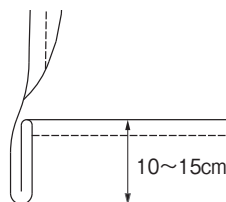


裾の始末

10～15cmくらいの2つ折りまたは3つ折りにします。すくい縫いになると、縫い目が表に出ないため、美しく仕上がります。

カーテンウェイトを裾の両端に入れます。大きなカーテンの場合は、はぎ目にも軽いものを入れてください。

トランスピラレントの裾やスクリーンの脇縫いなどシンプルに仕上げたい時はメロウロック(巻きロック)が美しく仕上がります。



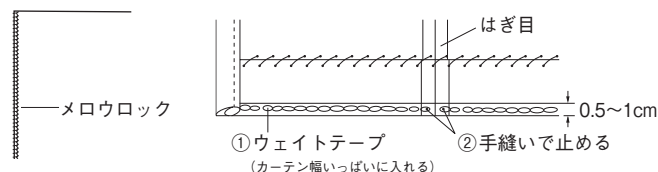
裾の両端にウェイトを入れる

対応商品：カーテン用品 [カーテンウェイト] [ウェイトテープ]

①ウェイトテープは1幅に対し多少多めに用意し、裾の折り返しにカーテン幅いっぱいに入れます。

②ゆとり分のウェイトテープが片寄らないように、はぎ目ごとに裏側から手縫いで止めます。

※レースの場合も同様に仕上げます。



▶ Point 吊り元に芯を入れる

上端(吊り元)の始末

プリーツをしっかりつくるために、カーテンには必ず芯地を入れましょう。
 さまざまな芯地テープが揃っていますので、スタイリングに合わせてお選びください。

芯地を使う場合

- ① 裾から正確に仕上がり丈を測り、アイロンで折り目を付けます。
- ② 折り目から芯地幅と縫い代分(ドレープの場合:1.5cm)を見込んで、あとは裁ち落とします。
- ③ 芯地を布地の裏に重ねて捨て縫いをします。

カーテンの吊り元には必ず芯地を入れ、プリーツをしっかりつくりましょう

[ドレープの場合]

芯地と布地を1.5cm程度重ねます。

[レースの場合]

芯地と布地の端部を合わせます。

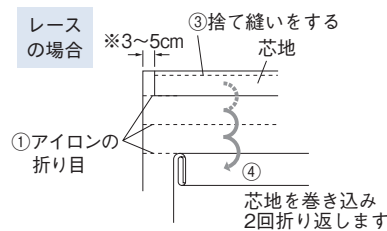
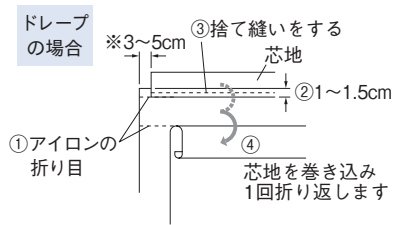
④ 芯地が見えなくなるように裏側に巻き込みます。

[ドレープの場合]

芯地を1回巻き込みます。

[レースの場合]

芯地を2回巻き込みます。



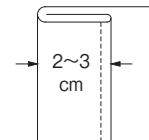
対応商品：カーテン用品 [芯地]

※ドレープなど厚手の布地を使用する場合は、芯地を端部から3~5cm中に入ったところまでにして、左右を折り返して芯が納まるようにするときれいに仕上がります。

芯地のほか、下記のような縫製部品があります。縫製の方法等、詳しくはカタログの製品該当ページをご参照ください。
 フラットカーテンには ▶カーテン用品[フラットテープ]
 ギャザーカーテンには ▶カーテン用品[ギャザーテープ]

両端の始末

両端の折返しは、2~3cmくらいの2つ折りまたは3つ折りにします。仕上がりをきれいにするために、縫製の際は、特にツレに気を付けます。生地の種類によって、本縫いまたはすくい縫いで仕上げます。



美しいプリーツの取り方

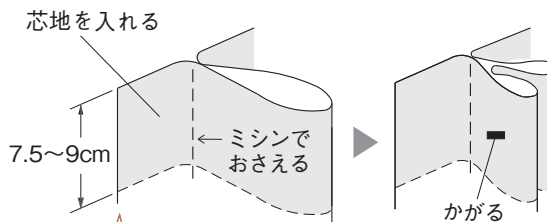
プリーツのつくりかた(3つ山ヒダの場合)

芯地の高さまでミシンでおさえ、中央を2つ折りにし、プリーツの高さの上端より2/3程度のところをかがります。

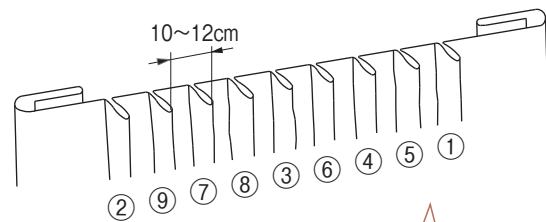
※はぎ合わせは、プリーツの縫い目付近にすると、はぎ目が隠れて意匠的にもきれいに処理できます。

プリーツを取る順序

下図で示す順序のように、最初2等分してからそれぞれの中のプリーツを取っていきます。プリーツ間隔は、10~12cm程度にすると美しいウェーブがでます。カーテンの素材や厚さに応じて設定してください。



プリーツの高さは7.5~9cmが理想的です



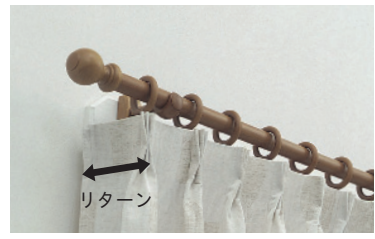
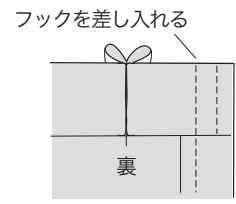
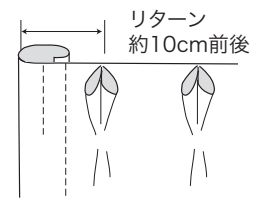
プリーツの間隔は10~12cmが理想的です

3 美しく取付ける

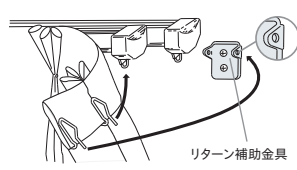
▶ Point リターンをつくる、取付け方に適したフックを使う

リターンのつくり方

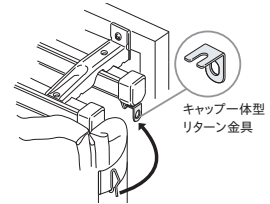
- リターンはカーテンの両サイドからの光漏れを防ぎ、断熱効果を高めます。また外からの視線も遮ります。
- カーテンの両サイドのストップのプリーツから各々約10cm前後(カーテンレールのブラケット寸法と使用するリターン金具の寸法を確認)のリターン(ノープリーツ)をつけます。
- 脇縫いの位置やその近くにフック差込用にミシンでたたいておきます。



- リターンの取付けは、いろいろな方法があります。



リターン補助金具



キャップ一体型リターン金具



リターンを考慮したMキャップ

効果的なフックの使い方

カーテンフックの種類により、カーテンを吊ったときの美しさが変わります。適したカーテンレールをお使いください。

ネクスティ

ネクスティは、前面に施した曲線のデザインと、走行性のよさからAフックがおすすめです。
Bフックの場合、カーテンのヒダが前に倒れ、美しく納まりません。

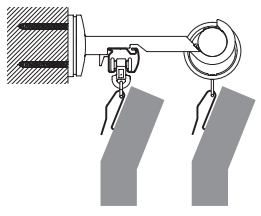
エリート

エリートの場合、Aフック、Bフックどちらにもお使いいただけますが、レールを隠して使用するBフックがおすすめです。
カーテンのヒダが曲がる角度が少ないため、すっきりと納まります。



[Aタイプ+Aタイプの組み合わせ]

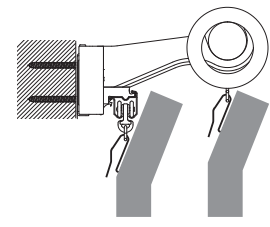
ランナーのリングとほぼ同じ高さにカーテンを吊るとき、たとえば装飾レールや天井付けのレール・カーテンボックスにお使いください。



Aタイプ Aタイプ

[Bタイプ+Aタイプの組み合わせ]

カーテンを持ち上げてレールが隠れるように吊るときにお使いください。
A・Bタイプを組み合わせることで、カーテンの上端が揃いカーテンが美しく仕上がります。



Bタイプ Aタイプ

カーテンが縫い上がったら

カーテンが縫い上がったら、吊ってから両側に寄せてプリーツを整理し、紐で、上部、中央部、裾部の3ヶ所程度をしぼります。2~3日間そのままにしておくとプリーツがきれいに出来ます。吊る前にはアイロンをかけて、はぎ目や縫い目のシワを伸ばしておきます。



カーテンを美しく吊るために

カーテンを美しく吊るために、生地やスタイルを選ぶこと、そして窓に合わせたしつらえにすることが必要です。窓とカーテン、カーテンレールとの関係、下地、採寸方法などを正しく理解しましょう。



1 カーテンの機能性を活かす取付位置

カーテンレールの長さ ↔

カーテンレールの長さは、窓枠外寸に対して、

- 装飾レールの場合は左右それぞれ **15cm 程度**
- 機能性レールの場合は **10cm 程度**

伸ばした寸法がベストです。

窓に対してカーテンを大きく覆うことで、閉じたときに光漏れを防ぎ、開けた時には、カーテンが窓にかからず採光性を高めることができます。カーテン上部の芯地が、完全に窓枠にかからないようにすることで、外からの見栄えも良くなります。十分な高さに下地があれば、スケールも大きな演出ができます。



カーテンレールを窓枠より外側に張り出させることで、遮蔽性と、採光性が高まります。窓枠にカーテンの芯地がかからないように、上に持ち上げることで、芯地・フックが透けたり、外から見たときの美しさが格段に違います。



カーテンレールの高さ ↑

カーテンレールを取り付ける高さは、窓枠上端から以下の寸法を持ち上げます。

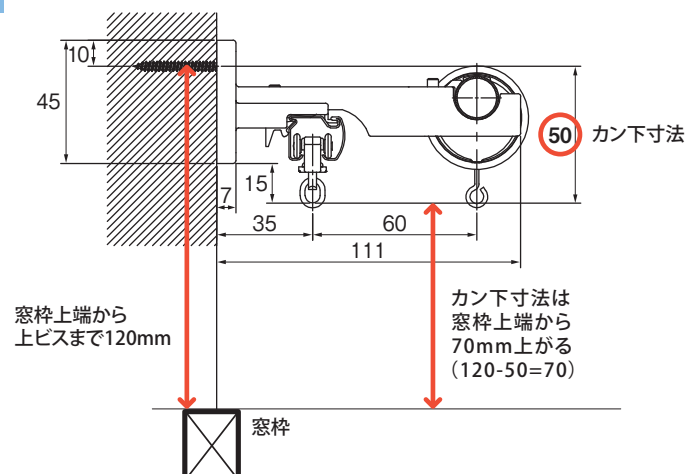
- 装飾レールの場合は
ブラケットの上ビスまで **12cm 程度**
- 機能性レールの場合は
ブラケットの上ビスまで **10cm 程度**

カーテンの丈はブラケットの上ビスから、カン下までの寸法を差し引いて、計算します。上ビスの位置が採寸の重要寸法です。

窓を大きく覆うことで、カーテン上部の光漏れを軽減することができます。

※カーテンの芯地(約90mm)が窓枠にかからないように取付ける場合は、ブラケットの上ビスまで14cm程度持ち上げてください。

【例】装飾レール(モノ16)の場合



ふさかけの取付位置

ふさかけの左右の位置は、カーテンのサイドがまっすぐ垂直になるように、窓枠よりも外側、エンドリングランナーの下が目安です。

- ローブタッセルの場合は
ローブの下端がカーテン丈の下から **1/3程度**

- 房タッセルの場合は
房の中央がカーテン丈の下から **1/3程度**

になるようにふさかけの取付位置を調整するとフォーカルポイントとしてバランス良く仕上がります。



2 住宅の建築構造と下地の基礎知識

カーテンレールの脱落は重大事故につながるため、下地に確実に施工することが重要です。
住宅工法によって、窓まわりの下地位置は異なりますが、代表的な工法を理解することで、下地の見当が付けられます。

壁構造の基本

開口部(窓)が付けられる耐力壁には、柱、間柱(構造材)と、内装仕上材(石膏ボード)を固定するための胴縁があります。
これらの木下地が、カーテンレール下地としてビスが効く部分です。
下地は耐力構造上、一定間隔で設置されているため、規則性があります。

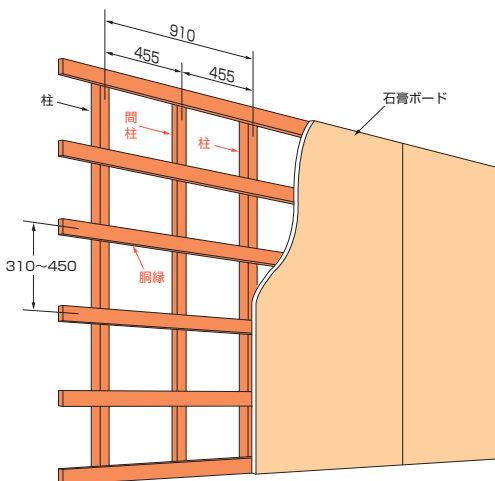
代表的な下地構造

垂直方向

柱、間柱が **455mm** ピッチで配置
(2×4構造では **655mm**以内)

水平方向

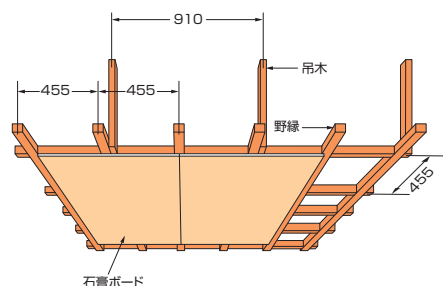
胴縁が **310mm** ピッチで配置
(省略される場合もあります。)



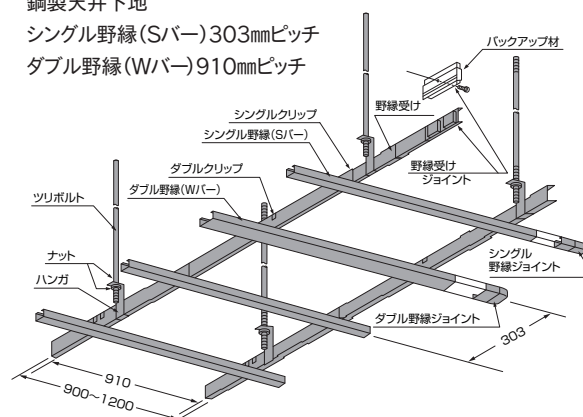
天井構造の基本

天井は、照明・配管等のために吊り天井構造になっており、天井材を支える野縁と吊り下げの野縁受けを棚のように組んでいます。

木製天井下地
野縁455×455mm



鋼製天井下地
シングル野縁(Sバー)303mmピッチ
ダブル野縁(Wバー)910mmピッチ

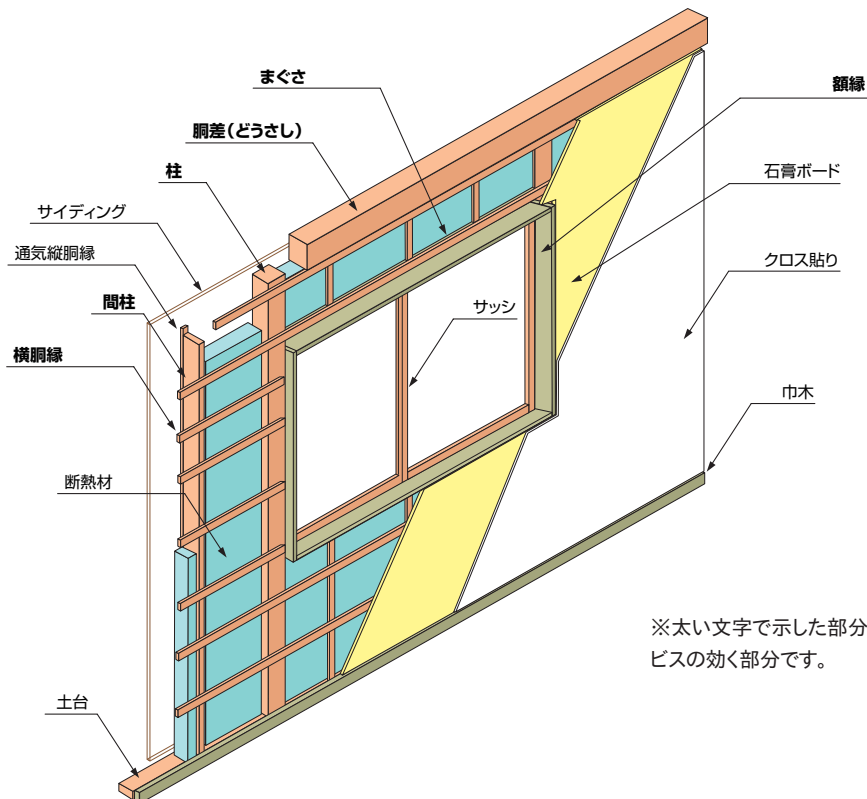


代表的な住宅の建築構造

木造軸組構造

日本の住宅の半数以上を占め、在来工法とも呼ばれます。
柱と梁、筋交いの構造材で支える構造です。

窓回りの構造

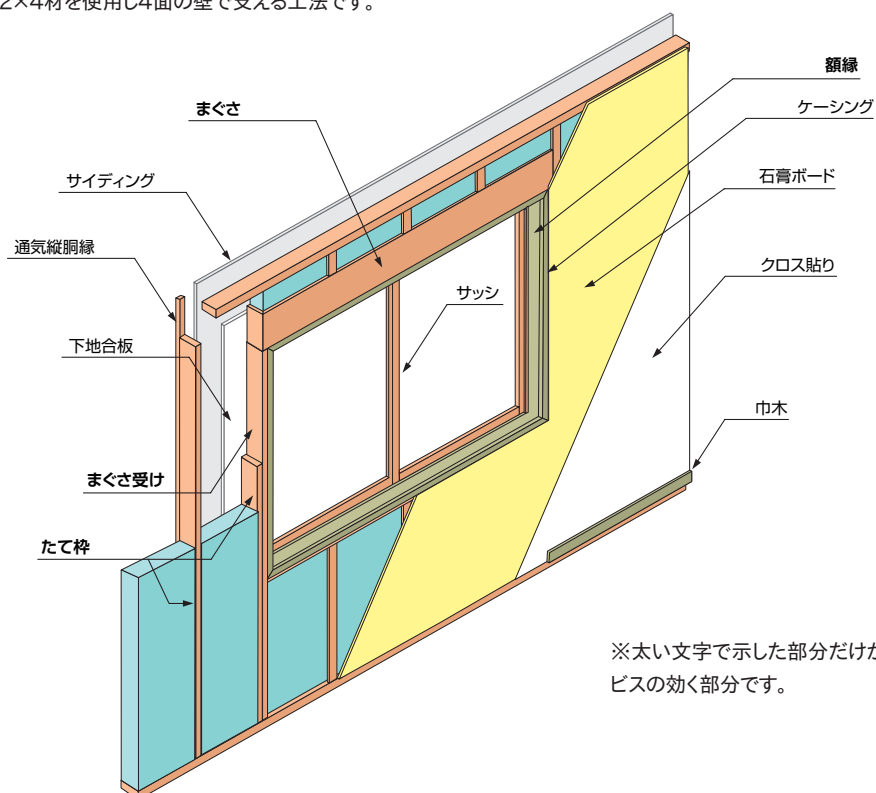


※太い文字で示した部分だけが、ビスの効く部分です。

木造枠組壁構造(2×4構造)

北米から輸入された工法で、2×4材を使用し4面の壁で支える工法です。

窓回りの構造



※太い文字で示した部分だけが、ビスの効く部分です。

3 採寸の基礎

採寸する時は、以下の2つの寸法の違いを理解しておきましょう

実寸 → 実際に測ったサイズ 仕上り → カーテンの仕上がりサイズ
※ゆとりや裾上がり分を考慮した寸法

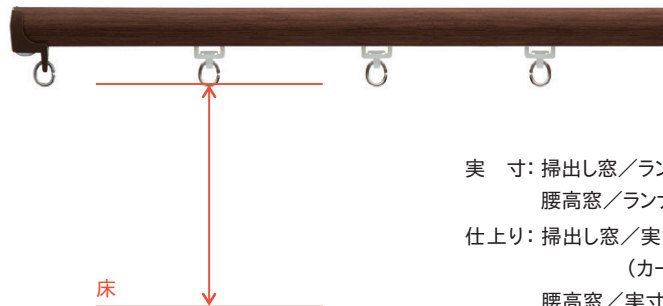
窓の採寸 カーテンレールがついている場合

機能性レールの場合（幅）



実 寸：エンドキャップのリング間寸法
 仕上り：実寸に2～5%のゆとり分を加えた寸法

機能性レールの場合（高さ）



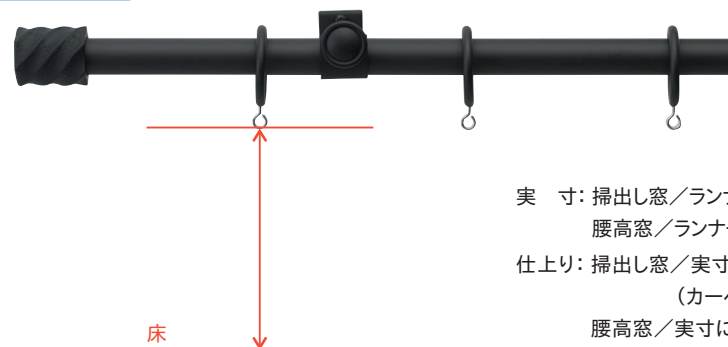
実 寸：掃出し窓／ランナーのCANの内円下から床までの寸法
 腰高窓／ランナーのCANの内円下から窓枠下端までの寸法
 仕上り：掃出し窓／実寸から裾上がり5～10mm引いた寸法
（カーペットの厚さにも注意が必要です。）
 腰高窓／実寸に150～200mm加えた寸法

装飾性レールの場合（幅）



実 寸：エンドリングランナー（エンドブラケットの外側のリングランナー）の
 リング間寸法
 仕上り：実寸に2～5%のゆとり分を加えた寸法

装飾性レールの場合（高さ）



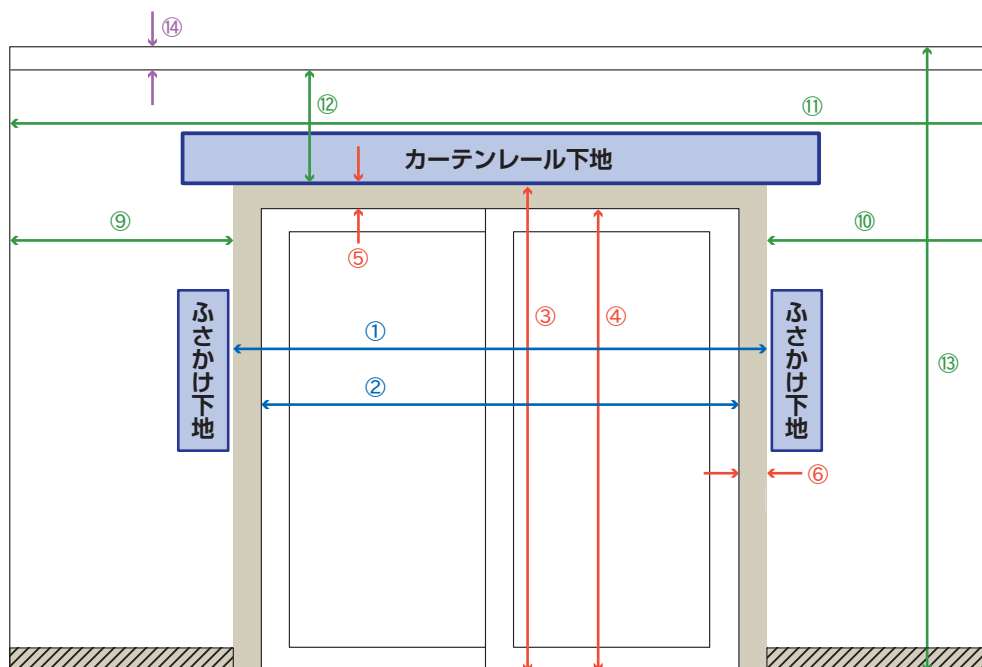
実 寸：掃出し窓／ランナーのCANの内円下から床までの寸法
 腰高窓／ランナーのCANの内円下から窓枠下端までの寸法
 仕上り：掃出し窓／実寸から裾上がり5～10mm引いた寸法
（カーペットの厚さにも注意が必要です。）
 腰高窓／実寸に150～200mm加えた寸法

窓の採寸 カーテンレールがついていない場合

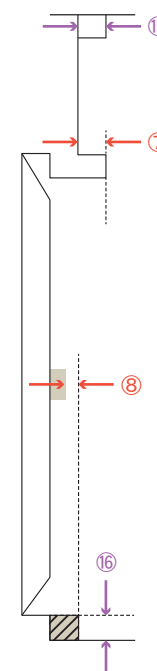
- ① 下地の状況を確認して、カーテンレールを付けられる位置を確認します。
- ② カーテンレールのブラケット上ビスが最適な位置(窓枠上端から120mm)に付けられるかどうか、下地探して確認します。
- ③ 窓枠の左右に、カーテンレールを10～15cm延ばせるスペースがあるかどうか、確認します。
- ④ 窓回りの状況からカーテンレールの取付に影響を与える、障害(エアコン、クローゼットドアなど)の有無を確認します。
- ⑤ カーテンレールを取り付ける高さ、長さが決まったら、カーテンを発注するために、幅、丈を採寸します。

掃出し窓

(正面)



(断面図)

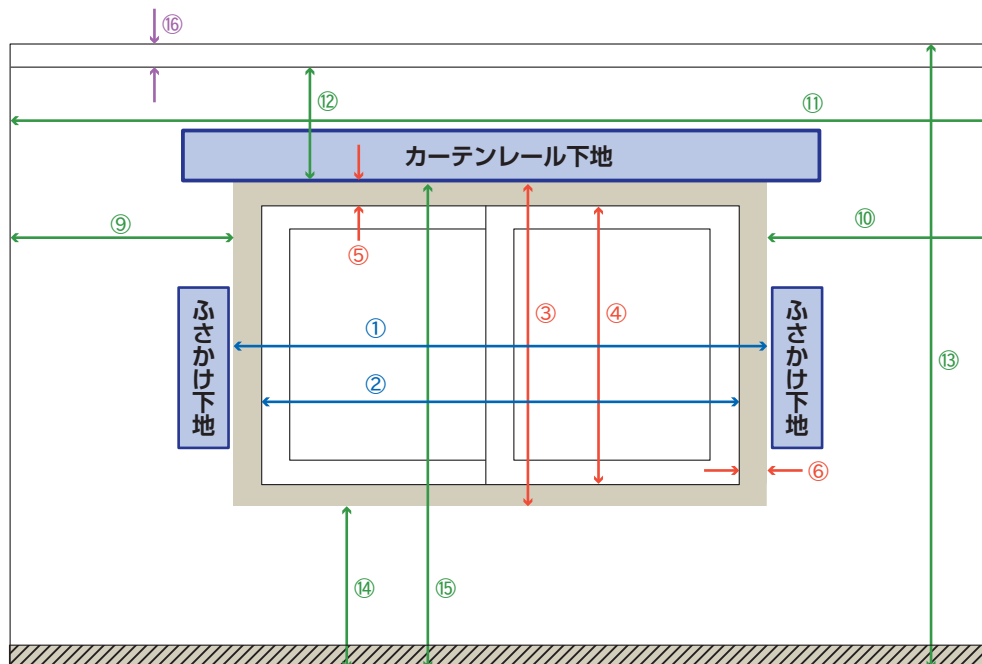


採寸する位置	重要度	注意点
窓の寸法		
① 窓枠外寸(外々)幅	◎	正面付の場合、枠の外々が起点です。
② 窓枠内寸(内々)幅	◎	窓枠内付の場合、枠の内々が採寸の起点です。
③ 窓枠外寸(外々)丈	◎	正面付の場合、枠の外々が起点です。
④ 窓枠内寸(内々)丈	◎	窓枠内付の場合、枠の内々が採寸の起点です。
⑤ 窓枠(上)見付幅	○	カーテンの芯部分が枠にかかるかどうかの判断に必要です。
⑥ 窓枠(横)見付幅	△	①-②から算出できます。
⑦ 窓枠出幅(ちり)	◎	「ちり」の出幅によっては、窓側のカーテンが干渉するため、スペーサー等の処置が必要です。
⑧ 窓枠奥行	◎	窓枠内付の場合、ブラケットが納まるか確認します。クレセントの可動範囲の確認も必要です。
窓回りの寸法		
⑨ 窓枠外～袖壁(左)	◎	窓枠の左右にレールを伸ばせるかどうか確認します。
⑩ 窓枠外～袖壁(右)	◎	窓枠の左右にレールを伸ばせるかどうか確認します。
⑪ 袖壁～袖壁	△	①+⑨+⑩から算出されます。
⑫ 窓枠上～天井(または天井見切り)	◎	レールの高さを決定するために、下地の確認が必要です。
⑬ 床～天井高さ		
⑭ 天井見切り見付(高さ)	△	カーテンの吊り方、または特異な状況の場合、採寸が必要です。
⑮ 天井見切り見込(奥行)		
⑯ 床立ち上がり寸法		

後からカーテン以外のブラインド類に変更されることも考え、一度の採寸で、必要な寸法をすべて確認することが望ましいです。

腰高窓

(正面)



(断面図)



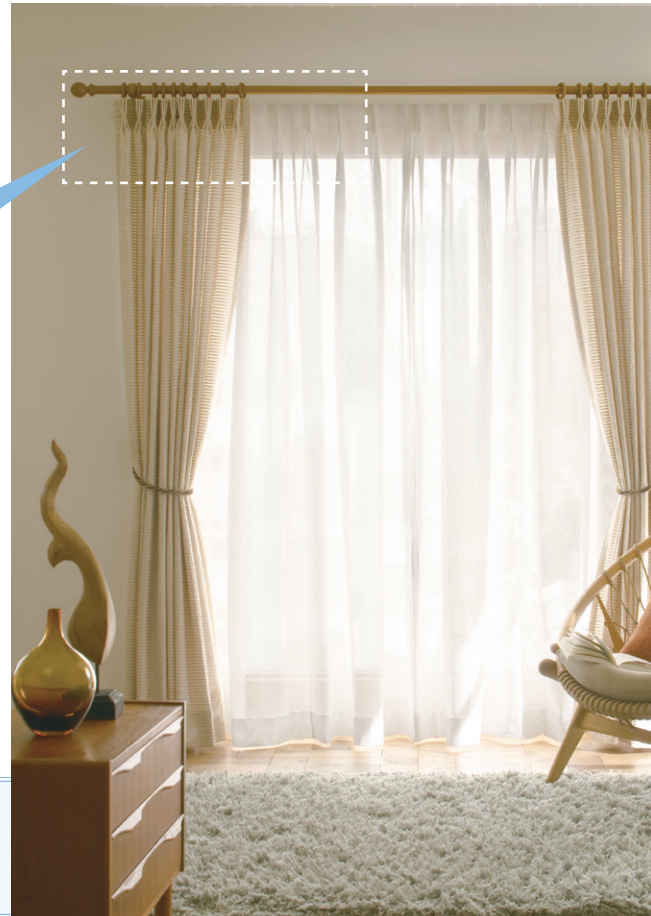
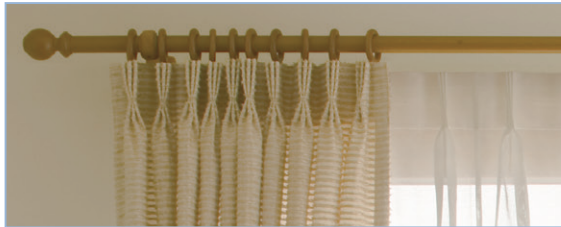
採寸する位置	重要度	注意点
窓の寸法		
① 窓枠外寸(外々)幅	◎	正面付の場合、枠の外々が起点です。
② 窓枠内寸(内々)幅	◎	窓枠内付の場合、枠の内々が採寸の起点です。
③ 窓枠外寸(外々)丈	◎	正面付の場合、枠の外々が起点です。
④ 窓枠内寸(内々)丈	◎	窓枠内付の場合、枠の内々が採寸の起点です。
⑤ 窓枠(上)見付幅	○	カーテンの芯部分が枠にかかるかどうかの判断に必要です。
⑥ 窓枠(横)見付幅	△	①-②から算出できます。
⑦ 窓枠出幅(ちり)	◎	「ちり」の出幅によっては、窓側のカーテンが干渉するため、スペーサー等の処置が必要です。
⑧ 窓枠奥行	◎	窓枠内付の場合、ブラケットが納まるか確認します。クレセントの可動範囲の確認も必要です。
窓回りの寸法		
⑨ 窓枠外～袖壁(左)	◎	窓枠の左右にレールを伸ばせるかどうか確認します。
⑩ 窓枠外～袖壁(右)	◎	窓枠の左右にレールを伸ばせるかどうか確認します。
⑪ 袖壁～袖壁	△	①+⑨+⑩から算出されます。
⑫ 窓枠上～天井(または天井見切り)	◎	レールの高さを決定するために、下地の確認が必要です。
⑬ 床～天井高さ	△	
⑭ 窓枠下端～床	○	カーテンの丈を検討するときに必要です。
⑮ 窓枠上端～床	△	カーテンの吊り方によって必要な寸法です。
⑯ 天井見切り見付(高さ)	△	
⑰ 天井見切り見込(奥行)	△	カーテンの吊り方、または特異な状況の場合、採寸が必要です。

後からカーテン以外のブラインド類に変更されることも考え、一度の採寸で、必要な寸法をすべて確認することが望ましいです。特に、腰高窓はサッシの開閉種類が多様なので、サッシの開閉、網戸の状況も確認してください。

採寸するとき知っておきたいこと

カーテン上部の芯地と窓枠の関係

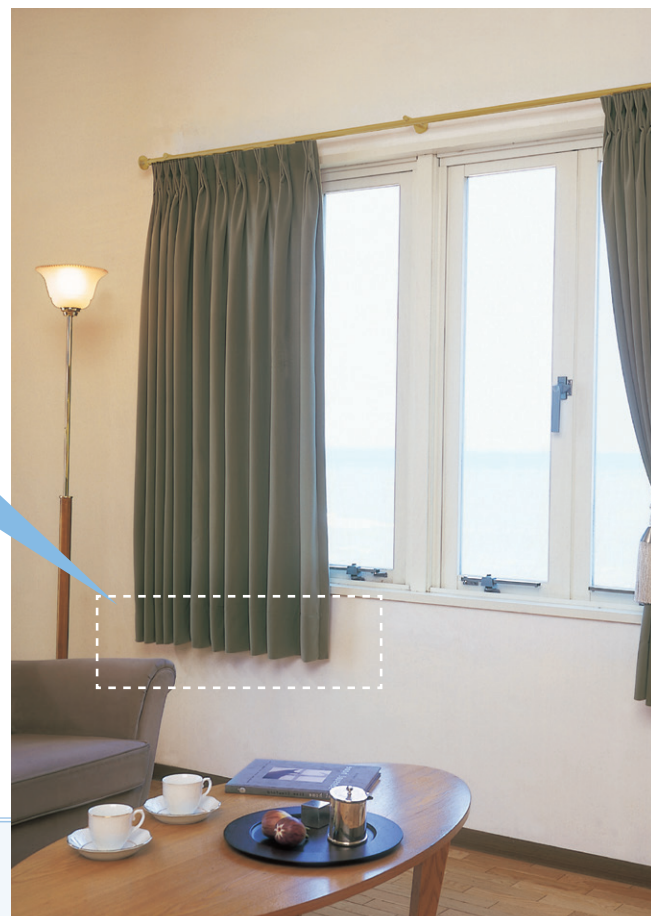
カーテン上部の芯地が、完全に窓枠にかからないようにすることで、外からの見えも良くなります。
十分な高さの下地があれば、スケールの大きな演出ができます。



窓枠にカーテンの芯地(約9cm)がかからないように、上に持ち上げることで、芯地・フックが透けたり、外から見たときの美しさが格段に違います。

腰高窓のカーテン裾の折返しと窓枠の関係

腰高窓の場合、カーテンの寸法は、窓枠下端よりも15~20cm長めがベストです。
カーテンの裾の折返しは約12cmあり、折返しより短い寸法の場合、光が当たり、ステッチ(ピンホール)や、折返しのラインが透けて、見えが悪くなります。



カーテンの裾の折返し分(約12cm)より長く伸ばさないと、ステッチや、折返しラインが透けて見えてしまいます。



知っている则便利な 窓辺の小ワザ

窓まわりのちょっと便利なテクニック。
窓辺を変えることで、より快適な空間をご提案します。



1 カーテンの吊り方でお部屋の印象が変わります。

カーテン窓枠のすぐ上に設置した場合と、カーテンを天井面から設置した場合とは、同じ部屋でも天井面から設置の方が、お部屋が広く大きく感じられ、天井が高く感じられます。また、天井面を塞ぐことで、省エネルギー対策の上でも効果的です。

LINK 〈天井付対応カーテンレール〉

- ▶ フィットアーキ
- ▶ レガートグラン
- ▶ レガートユニ
- ▶ レガートスクエア
- ▶ レガートプリモ
- ▶ レガート
- ▶ シエロライン
- ▶ シエロクラウド
- ▶ シエロミニ



カーテンを窓枠すぐ上に設置



カーテンを天井面から設置

2 機能性レールにノイボックスをプラスしてワンランク上の窓辺へ。

天然木を使ったノイボックスを機能性レールにプラスすると、カーテンの吊り元にアクセントを与え、美しく納まります。12色のカラーラインナップがあり、さまざまなテイストへ対応可能です。



Before
機能性レールのみの場合



After
機能性レール+ノイボックス

LINK

- ▶ ノイボックス
- ▶ ネクスティ
- ▶ エリート

3 カバートップをつければ、吹き抜けの意匠性がアップ。しかも省エネ。

吹き抜けなど、上からの視線がある状況でもカバートップをつけることで見た目がぐっときれいに納まります。カーテンレール上部からの光漏れを抑えます。更にお掃除しやすいメリットも。



カバートップなし



カバートップあり
※完全遮光の効果はありません。

LINK

- ▶レガートユニ
- ▶レガートグラン
- ▶レガートスクエア
- ▶レガートプリモ
- ▶レガート
- ▶ノイボックス
- ▶ニューバランス
- ▶ネクस्टイ
- ▶エリート

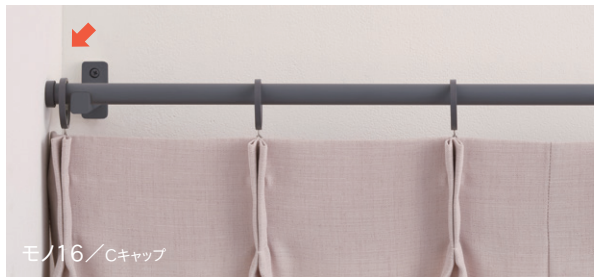
4 エアコンや壁が近くにあっても、カーテンレールが取付け可能です。

コンパクトなデザインキャップがあります。

スペースの限られた壁面、エアコン側などにはコンパクトなデザインキャップをお選びいただくことで、どんな場所にも取り付けられます。

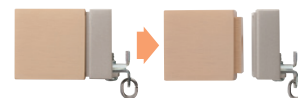
先端が取り外しできるキャップがあります。

壁面やエアコンの設置スペースにも取付けが可能です。



LINK

- ▶モノブレンド 16
- ▶モノ 16
- ▶グレイスブライト 16
- ▶ノルディ 25
- ▶ウッディレジオス 25
- ▶ヴィンクス 22
- ▶ルブラン 22



キャップの先端が外せるため、お部屋のコーナーにも設置が可能です。
※取り外しにはドライバーが必要です。

LINK

- ▶ローレット木目 25
- ▶レガートスクエア
- ▶レガートプリモ

5 ブラケットスルー機構のカーテンレールで、入隅・出隅もすっきり納まります。

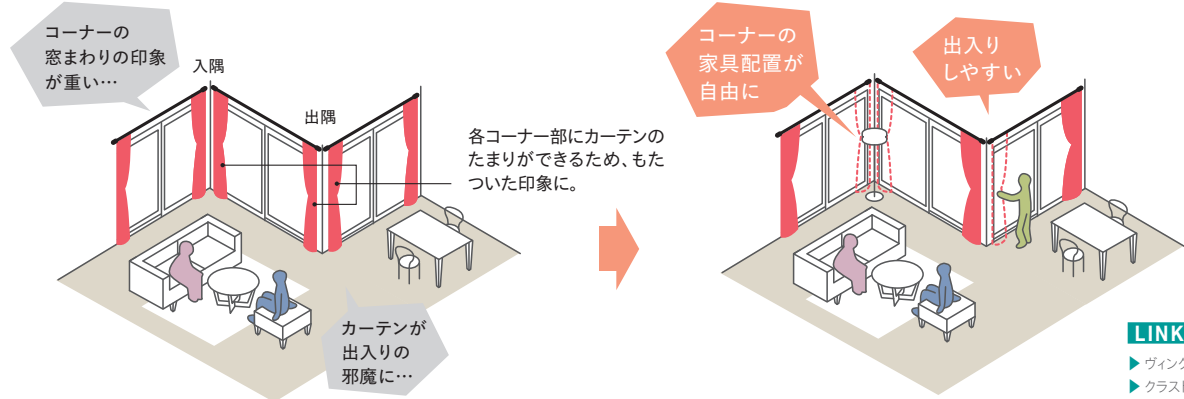
ブラケットスルー機構(特許出願中)で、長いレールでも片開きにすることが可能に。
 コーナー部分のカーテンのたまりが少なくなることで、出入りのしやすさや家具の配置の自由度がアップします。

大型のコーナー窓への提案例

■通常のリングランナー式の場合



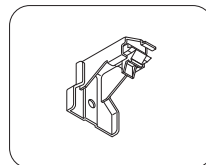
■ブラケットスルー機構の場合



LINK
 ▶ ヴィンクス 22
 ▶ クラスト 19

6 クローゼット等の扉がぶつかってしまう時も問題解決。さらに光漏れも軽減。

LT エキストラシングルブラケット



クローゼットの扉がぶつかってダブルブラケットが使えない時に。LTエキストラシングルブラケットでドレープカーテンを吊り、レース側レールは窓枠内に天井付することで解決できます。また、カーテン高さが通常のブラケットよりも上がるので、光漏れを軽減します。

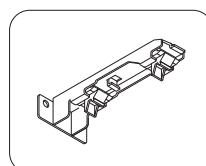
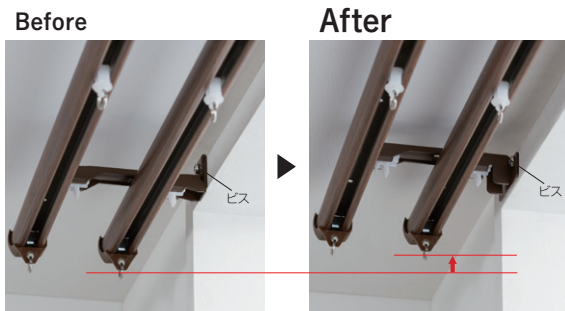
〈シングルブラケット付の場合〉 〈LTエキストラシングルブラケット付の場合〉



LINK
 ▶ ネクスティ
 ▶ エリート

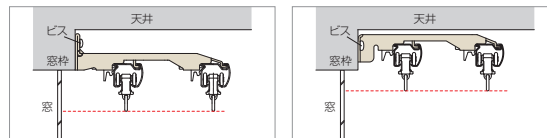
7 窓枠上のスペースが無く、取付け場所の下地の高さが足りない時も OK。

NT ダブルブラケット



スペースが狭く、窓枠に取付ける場合に。NTダブルブラケットならビスをブラケットの横に打てるので、取付けが可能です。更にカーテンの吊る位置も上がり、光漏れを軽減します。

〈ダブルブラケット付の場合〉 〈NTダブルブラケット付の場合〉



LINK
 ▶ ネクスティ
 ▶ エリート

8 ベランダに出るときのカーテンの通りづらさを解消できます。



マルチマグネット機能(カーテンレールの両サイドにサイドマグネットランナー)を使えば、両サイドからの開閉ができます。ベランダへ出るときなど、カーテンを簡単に動かせスムーズに通れるようになります。

LINK

- ▶フィットアーキ
- ▶レガートユニ
- ▶レガートグラン
- ▶レガートスクエア
- ▶レガートプリモ
- ▶グラビエンス
- ▶フロウ
- ▶シエロライン
- ▶シエロクラウド
- ▶シエロミニ
- ▶ネクスティ

9 カーテンをコンパクトに納める方法があります。

窓の開口部を広く確保できるカーテンストッパーで、カーテンをコンパクトに納めることができます。カーテンストッパー(特許登録済)を使うと、生地や芯地の反発で閉まってしまうカーテンでも、いつもの操作で好きな位置でとめられます。



カーテンストッパー

LINK

- ▶フィットアーキ
- ▶レガートユニ
- ▶レガートグラン
- ▶レガートスクエア
- ▶レガートプリモ
- ▶レガート
- ▶グラビエンス
- ▶フロウ
- ▶シエロライン
- ▶シエロクラウド
- ▶ネクスティ
- ▶エリート



10 静音ランナーでカーテンの開閉音を軽減します。

寝室、施設など静けさを保ちたい場所でカーテンの開閉音が気になる場合には、静音仕様の商品をお使いください。音の大きさはdB(デシベル)で表され、一般的に10dB下がると、人間の耳では半分程度に音が小さくなったと感じられます。



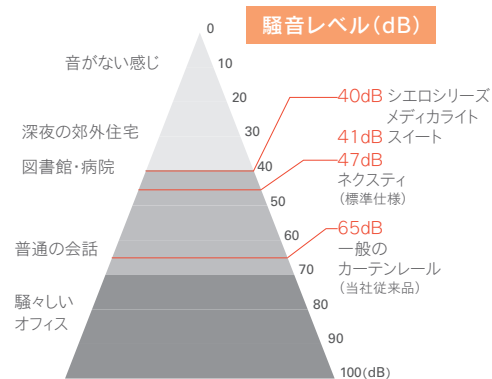
ネクスティ



メディカライト



スイート



一般住宅向け

ネクスティ+ランナー(静音タイプ)



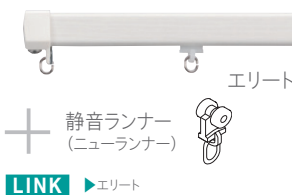
標準でセットしているランナーは、静音仕様となります。

コントラクト・医療向け

スイート+ランナー メディカライト+ランナー



エリート+静音ランナー(ニューランナー)



シエロクラウド+ランナー



ウィンビア+静音ランナー



セルフ+静音ランナー





11 いつものタッセル・ふさかけもひと工夫！ ふさかけを使用することなくカーテンを束ねられます。

マグネットタッセル(特許登録済)に付属のマグネットプレートで、ふさかけを使用することなくカーテンを束ねられます。タッセルを使わない時もカーテンの裏側に下げておけるので、タッセルとカーテンがばらばらに離れてしまうことはありません。

LINK ▶ マグネットタッセル A・B・C・D



12 長さ調整ができるタッセルがあります。

カーテン幅や生地のパリュームに合わせて、タッセルの長さを調節することができます(特許出願中)。最大20cmの長さ調整が可能です。同じ空間に異なるサイズの窓がある場合にも同じタッセルでコーディネートができ、便利です。

LINK

- ▶ 長さ調整機能付タッセル
- ▶ BWL75
- ▶ BWC60



13 カーブレールも対応できます。 ※別製作カーブレールには特別配送費がかかります。

機能性カーテンレールのカーブレール価格算出方法を
ニューデラック アルミナチュラルを例として紹介します。

単位:円(税別)

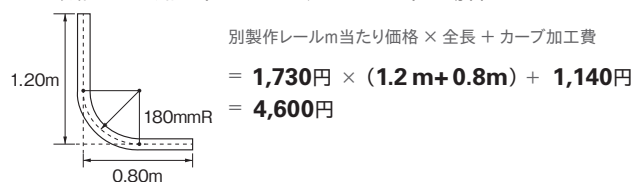
ニューデラック アルミナチュラル	価格
カーブ加工費(180mmR、240mmR)	1,140
全体カーブ加工費(800mmR以上)	1,350
別製作レール m当たり	1,730

※規格カーブ(180mmR、240mmR)と全体カーブで算出方法が異なります。

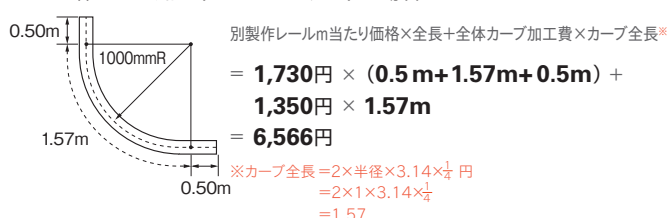
LINK

- ▶ ネクスティ
- ▶ エリート
- ▶ ニューデラック
- ▶ ウィンピア
- ▶ C型
- ▶ 中型
- ▶ 大型
- ▶ スイート
- ▶ メディカライト
- ▶ ニューリブ
- ▶ 点滴用レール
- ▶ フロウ
- ▶ シエロミニ

規格カーブ加工(180mmR、240mmR)の場合



全体カーブ加工(800mmR以上)の場合



※カーブレールの両端には必ず直線(200mm)が必要です。

窓からできる省エネの話

部屋の中で大きな面積をしめる窓。家の壁には断熱材がありますが、窓はガラスのみで外気が直接あたる場所です。省エネアイテムを上手く活用することにより暖房熱を逃がさない、冷気を入れない節電対策がしっかり行えます。

窓全体を覆うことで、暖房効果がぐんとアップ！
窓の省エネ対策は暖気を逃がさない、冷気を入れないが基本です。

1 カーテンをサイドまで覆いましょう。

カーテンをサイドまで覆うことで、暖気を逃がさない、冷気を入れない効果があります。カーテンサイドから熱が逃げたり、また、すきま風の侵入も抑えます。さらに光漏れも軽減できて一石二鳥の優れものです。

省エネ効果
約5%
アップ!



キャップ一体型リターン金具

サイド部分にまでカーテンがくるようにリターン部分をつくります。リターン縫製で、暖房効果がアップします。
※リターン部分はピンフックを使用しています。

LINK

- ▶ ネクスティ
- ▶ エリート
- ▶ ニューデラック
- ▶ ウィンビア
- ▶ C型
- ▶ スイート
- ▶ メディカライト



省エネ効果
約5%
アップ!



Mキャップ

デザイン性のあるMキャップなら、見た目もきれいにカーテンをサイドまで覆えます。

LINK <Mキャップ対応レール>

- ▶ レガートユニ
- ▶ レガートグラン
- ▶ レガートスクエア
- ▶ レガートプリモ
- ▶ レガート
- ▶ ネクスティ
- ▶ エリート

省エネ効果
約5%
アップ!



リターンマグネット

リターン縫製のカーテンにリターンマグネットを併用することにより、光漏れを抑え、意匠性もアップします。

LINK

- ▶ リターンマグネット
- ▶ リターンマグネットII

カーテンの裾までびったりリターン。

2 カーテンレール上部をふさぎましょう。

カバートップを利用したり、レール自体を天井付にすることで、カーテン上部からの冷気の侵入を抑え、また暖房熱を逃がしません。

省エネ効果
約 **12%**
アップ!



カバートップでふさぐ

固定クリップで、レールの上に乗せるだけで簡単に取付けできます。

LINK

- ▶ レガートユニ
- ▶ レガートグラン
- ▶ レガートスクエア
- ▶ レガートプリモ
- ▶ レガート
- ▶ ネクスティ
- ▶ エリート

省エネ効果
約 **12%**
アップ!



フィットアーキでふさぐ

レール天面一体となった形状なので、カバートップと同等の効果があります。

LINK

- ▶ フィットアーキ

省エネ効果
約 **12%**
アップ!



天井付でふさぐ

天井付ブラケットを使用して天井面にぴったり施工できます。

LINK

- ▶ レガートユニ
- ▶ レガートグラン
- ▶ レガートスクエア
- ▶ レガートプリモ ※1
- ▶ レガート ※2
- ▶ ネクスティ
- ▶ エリート

※1 キャップストップAにはご使用できません。
※2 キャップストップA・B・Eにはご使用できません。

省エネ効果
約 **12%**
アップ!



ノイボックス + カバートップでふさぐ

カバートップをプラスすれば上からも横からも省エネ効果が期待できます。

LINK

- ▶ ノイボックス

省エネ効果
約 **19%**
アップ!



カーテンボックスでふさぐ

カーテン上部全体をカバーするから、カーテンボックスも省エネ対策におすすめです。

LINK

- ▶ グラビエンス
- ▶ ファセット

その他の省エネ対策アイテム

内窓 + ウィンドウトリートメント

内窓にカーテンが簡単につけられる内窓ブラケットスペーサーを品揃え。内窓とウィンドウトリートメントをプラスして、断熱効果を高めます。



2枚重ねで25mm

内窓ブラケットスペーサー

LINK ▶ 内窓ブラケットスペーサー

省エネデータ

		① ガラスのみ	①+一般カーテン レールダブル付	①+一般カーテン レールダブル付 +リターン	①+一般カーテンレール ダブル付+リターン +カバートップ	①+カーテンボックス ダブル付+リターン
窓から逃げる 熱量 (U値) (W/m ² ・K)	単板ガラス (3mm)	6.0	4.2	4.0 約5% アップ	3.7 約12% アップ	3.4 約19% アップ
	複層ガラス (3-A6-3mm)	3.4	2.7	2.7	2.5	2.4
対象 アイテム	-	-	-	・リターン金具 ・リターンマグネット ・Mキャップ	・カバートップ ・ノイボックス ・フィットアーキ	・グラビエンス ・ファセット

※U値 (W/m²・K) : 室内外の温度差が1度の時、面積1 m²あたりの移動する熱量。

※U値はJIS A 4710建具の断熱性試験法に基づいて算出。

※上記数値は、上記試験基準に基づいて独自で算出したものであり、性能を保証するものではありません。